

科学技術の潮流

JST研究開発戦略センター

⑫

延伸の土台

わが国では平均寿命が年々延び、1975年に男性71・73年、女性76・89年だったものが、17年には男性81・09年、女性87・26年と発表された。この40年で男女とも10年近く長生きになったといえるが、一方で健康寿命（健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間）と平均寿命には約10年の開きがあり、これは21世紀に入ってから縮まっていない。人生の不健康な期間をできる限り短縮して健康寿命を延ばすことが、何よ

り重要となっている。健康寿命の延伸に必要

な医療・健康技術の

実現には、その土台と

なるバイオ材料の研究

（生体適合性）を有す

ることが不可欠であ

る。わが国ではこれま

り、このような機能を

もつ材料を我々はバイ

オアダプティブ材料と

呼んでいる。例えば、

生体組織が再生し機能

り、それにはわが国の

視点・知識を集結

（金曜日に掲載）

高度な材料技術を支え

異分野間コミュニケーション

を促進すること

が重要である。異分野の研

究者が忌憚なくディス

カッションできる連携

の場をつくり、

（金曜日に掲載）

バイオ材料 健康・長寿社会に貢献



科学技術振興機構（JST）研究開発戦略センターフェロー（ナノテクノロジ・材料ユニット） 荒岡 礼あや
 東京工業大学大学院理工学研究科博士課程修了。JST戦略的創造研究推進事業においてナノテクノロジ・材料分野の研究推進業務を担当した後、現職。博士（工学）。

